

願いが叶う：今回、参加させていただくことが決まり、一番初めに思ったことです。

土砂災害の被災地となった広島市の映像を見るたびに、心が痛んでいました。私の故郷・広島。実際に生まれた場所は広島市内ではありませんが、「広島」という地名には懐かしく温かなものをいつも感じていました。その故郷が、大変な状況になっている…。すぐにも行きたいと思いつつながら、その一歩を踏み出せませんでした。

八月二十七日に山路先生とお会いし、八月三十日～三十一日に「復興地に学ぶ会」で広島へ行くことになったことを知りました。帰宅し、急いで大谷先生に参加希望のメールをしたところ、「熱烈歓迎」というご返信をいただき、涙が出るほど嬉しかったです。

こうして「広島に行きたい」という私の願いが叶うこととなりました。

大谷先生が企画してくださり、大木先生が手配してくださり、現地の方が受け入れてくださり、そして大木先生と西貝先生が運転してくださったおかげで、参加することができました。感謝してもしてもし切れません。

また、お見送りに来てくださり、差し入れまで

してくださった西宮掃除に学ぶ会の長谷川伸江さんと北口恵美子さんそして宮崎先生、岡本先生のお優しさに感激いたしました。

現地で、川合先生ご夫妻と合流しました。川合先生ご夫妻からも、手作りのサンドイッチとおにぎりを差し入れていただきました。前日や朝早くから十七人分もの用意をしてくださった川合先生：そのことを考えるだけで熱いものがこみあげてきました。

多くの方々の愛に支えていただき、活動させていただきました。私も、この方々のように「まず身近にいる人を大切にする」ことができる人になりたい：心からそう感じました。そしてそうできるよう、いつも皆様のことを心に置かせていただこうと思いました。

現地のボランティアセンターに到着したのは、朝の六時三十分頃でした。受け付けを待つため、近くの公園に行きました。すると、もうすでに五十名程の方々が整然と列を作って待つておられました。私たちも列に加わり待つていると、その後も続々と受け付けを待つて人たちがやってきました。受け付けが始まる頃には、列の最後尾が見えないほどでした。

「こんなに、人の役に立ちたいと思っている人がいるんだ。」と思うと、感動して心が震え、体がゾクツとしました。「日本はまだまだ捨てたも

のではない。」という言葉が頭の中をぐるぐる回っていました。

受け付けする場所には、多くのスタッフの方々（恐らくほとんどの方がボランティアだと思います。）がおられました。そして、ボランティアの物資（長靴・タオル・スコップ・マスク・飲料水など）が所狭しと置かれていました。

そこでも、受付待ちの人たちは、スタッフから指示されたとおりに列を作って並んでいました。結構待ち時間が長かったので、私の前に座っていた若い男性が「説明はもうええから、はよさせろや。」と小さい声でおっしゃいました。言葉使いはよくありませんでしたが、その「早く活動したい。」という心に刺激され、また涙が出てきました。

ボランティアを志願して来られた方々は、このような若い男性や女性も多かったのですが、中には私の母と同い年くらいの年輩の女性もおられました。そのことにも大変驚きました。

いよいよ現地に出発することになりました。安佐南区の被災地はかなり遠いので、マイクロバスがピストン輸送で私たちを現地へ連れて行ってくれました。

サテライトに到着し、そこから歩きました。山からは少し離れたところでしたが、土石流の形跡は充分感じることができました。線路の周りには土

石流を撤去したような状態になっていました。(翌朝のテレビで知ったのですが、その線路を使う電車が再開に向けて試運転されたとのことでした。)

山を登り始めると、テレビで見ると以上の辛い光景が目に見え込んできました。全壊した家屋、土砂にのみ込まれた車……。震災三か月後に行った石巻を思い出しました。腐敗臭とおびただしい数のハエこそありませんでしたが、一瞬で人の命や生活を奪った自然の猛威を私の身体すべてで感じました。

私たちが作業させていただいたのは、1軒のおうちでした。土石流や木がおうちの半分くらいを覆っていました。道には、お花が供えられていました。亡くなった人がいることがそれでわかりました。

作業の依頼主の男性がその場におられたのですが、後で、その方のお兄様が亡くなられたということがわかりました。その男性のお気持ちを考えて、辛くてたまらなくなりました。「心をこめてさせていただこう。」改めて、そう決心しました。

土嚢袋に土を詰めていく作業だったのですが、石が多く作業がなかなか進みません。でも、「丁寧、丁寧。」と心で唱えながらさせていただきました。

「土嚢袋に入れるのは3分の1程度にしてください。」と、そのチームのリーダーである大木先生がおっしゃいました。私は体が小さく力もないので、土嚢袋に半分も入れると重くて持ち上げることができません。大木先生がおっしゃってくださったように、三分の一だけ入れればよかったのですが、たくさん入れて運んだ方が効率がいいし、少なかったら楽をしているように見られるのではないかと……。という自分よがりの考えで、無理して重い土嚢袋を運んでいました。

今、考えると、それは後の方々のことを考えていない愚行でした。自分の見栄で、結局は自分自身も疲れさせることをしていました。大木先生は先を見越してお声がけしてくださっていたのでした。

復興支援の活動は「リレー」だと思います。今の作業が次にどう繋がっていくのかを意識することが大切だと思います。

有り難いことに、この日は快晴でした。そのおかげで、作業を中断することなく続けることができました。ただその代わり、暑さは体にこたええました。臭いのあるホコリを吸い込むことを防ぐためマスクとゴーグルをしていたのですが、ゴーグルは汗の湿気ですぐに曇ってしまいました。鉄板インソールを入れた長靴が重く暑く、弱い自分が何度も出てきました。

そのたびに、周りの方々にお声がけしていただき、何とか作業を進めることができました。

皆さんは本当にテキパキと動かれました。そして、周囲をよく見て、自分が今何をしたらよいかを常に考え、行動されていました。そのお姿がとても美しく、眩しく感じました。

前述のとおり、今回は本当にたくさんの方がボランティアとして来られていました。ボランティアをしたくても、活動できる場所がまだ限られているため、受付のとき定員に達し、ボランティアを断られている方もかなり多くおられるそうです。

では、そんなにボランティアの数がいらぬのかというと、そうではないと思います。私のような体も心も弱い人間には、こまめな休憩が有り難く、今回も人数が多かったので、昼食休憩を交互にとつて、ゆっくり休ませていただけました。

こんなことを書くのは情けないのですが、無理し過ぎないペースでさせていただくためにも、人数が多いのは有り難いと感じました。

活動前、坂道を登っているときは、土石流に覆われたおうちが多く、見るのも辛かったです。活動が終わり、坂道を下るときには景色が変わっていました。土石流が撤去され、壁が見えているおうちが増えていました。

「人の力ってすごい！」一人ひとりの力は小さ

いかかもしれませんが、たくさん集まるとこれだけのことができるのだ……そう思うと、また胸が熱くなりました。

サテライトに到着すると、石巻では見たことがないような光景が目飛び込んできました。長靴の泥を落として洗うところ、手を洗うところ、うがいをするところ、水を飲むところ……と分かれて設置されていて、それぞれにスタッフの方がおられ、「どうぞ！どうぞ！」と呼びかけてくださっていました。その様子に違和感を覚えるほどでした。

ボランティアに対してこれほど手厚い体制だと、気軽にボランティアができ、きつとそれはいいことなのだと思うのですが……。

ボランティアセンターを出るとき、何人もの方々が「ありがとうございます。」と心を込めて言ってくれました。有り難いのはこちらの方です。胸がいつぱいになってバスに乗り込みました。

大谷先生がいつもおっしゃっている「被災地に行く人が良くて、行かない人がダメなわけではありません。」というお言葉、そのとおりだと思います。今回はチャンスをいただき、タイミングが合ったので、私は行くことができました。行かなくても、心を寄せることはできると思います。でも、私のように想像力の乏しい人間は、行くこと

により、体で感じ、少しだけわかることができるのです。そして、他人事ではない我が事に近づけ、心を寄せることができるのだと思います。

本当に多くの方々に支えていただき、行かせていただくことができました。

今回も「日本を美しくする会」様にはたくさんのお支援をしていただき、心から感謝申し上げます。そして、大谷先生をはじめ最幸のときを一緒に過ごすことができた「復興地に学ぶ会」の皆様、お心をくださった皆様、「終電が間に合わなかったら迎えに行く。」と約束をくださった大崎先生、そして留守番をしてくれた次男……本当にありがとうございました。

東北や広島でご縁をいただいた方々とこれからも繋がり、自分のできることを精一杯させていただきます。

ありがとうございました。